

## 61 ムーアフィールドズ眼科病院の設立について

柳澤波香

青山学院大学・津田塾大学

ムーアフィールドズ眼科病院 (Moorfields Eye Hospital) は、一八〇五年、外科医 John Cunningham Saunders により、ロンドンに設立された。この病院は、世界で初めて設立された眼科専門病院であり、今日世界最大の規模を誇る。またイングランド初の専門病院である。

創設者 John Cunningham Saunders (一七七三年—一八一〇年) は、英国デヴォン州に生まれた。地元の外科医 John Hill の下で五年間の医学修業を積んだ。その後、ロンドンへ出て、St Thomas's Hospital で、名外科医 Astley Cooper の解剖助手を務めた。Cooper からの信頼は非常に厚かったが、Royal College of Surgeons での十分な修練を積んでいない Saunders に

は、ロンドンの有名病院での昇進の見込みは無かったので、ケント州の小村で開業医となった。しかし、Saunders の技量を惜しむ恩師や友人医師の強いすすめで、再びロンドンへと戻った。

当時、英国はナポレオン率いるフランス軍と交戦中であつた。エジプト遠征の折、多くの兵士が「エジプト眼炎」に罹患した。これは、トラコーマであり、英国軍の本国帰還が進むに連れて、一八〇三年頃からロンドンで大流行した。当時、トラコーマは失明の可能性を伴うものであつた。

眼疾患は、一九世紀の初めに至るまで、所謂 oculist によつて治療されることが多かつた。Oculist は、正規の医学修業を必ずしも積んだものではなかつた。当時の一般病院では眼疾患についての関心は概ね低く、治療と研究の中心となる医療機関は無かつた。

Saunders はこのような状況下で、Cooper や同僚医師らと相談し、眼と耳の疾患に特化した診療所を、貧しく病める者のために創設することを決意し、一八〇五年、チャーターハウススクエアに、The London

Dispensary for Curing of the Eye and Earを設立した。

英国の一八世紀は一般病院の時代、一九世紀は専門病院の時代と称されるが、専門病院の必要性は、当初は認識されにくかった。一九世紀初頭には、専門病院は医者興味本位と自己利益によるものであるとさえ批判された。しかし、創設者らの尽力や、医学雑誌The Lancetの創設者Thomas Wakeleyが、専門特化性の重要性を力説したことなどから、理解が広まっていた。

Saunders<sup>12)</sup>、The London Dispensary for Curing of the Eye and Ear<sup>13)</sup>、トラコーマの治療の他、先天性白内障の手術を多く手がけ、A Treatise on Some Practical Points Relating to the Diseases of the Eye<sup>14)</sup>を著わした。これは、彼の死後にいたるまで、当時の眼科医のバイブル的存在となった。年間症例数は、一八〇五年には六百例であったが、年々増加し、一八〇八年には二千例を超えた。患者数の増加や諸般の事情から、診療所は一八二二年、ムーアフィールドズに移転された。移転後、病院となり、The London Ophthalmic Hospitalと改称された。(当時から病院はMoorfields Eye Hospitalと愛称で

呼ばれていたが、これが正式名称になったのは第二次世界大戦後のことである)

一九世紀の半ばになると、一般病院でも、診療科目の専門化が進み、眼科の設置が始まった。この潮流に對して、The London Ophthalmic Hospitalは、検眼鏡、吸入麻酔、消毒法を他に先駆けて導入し、また、眼科学専門誌The Ophthalmic Hospital Reportsを発刊し、眼科専門病院としての地位を確立していった。更に、拡張、発展を遂げたThe London Ophthalmic Hospitalは眼疾患治療の世界的中心地となった。

現在、英国眼科医の半数以上が、Moorfields Eye Hospitalで研修を積む。また、世界最大規模の眼疾患のリサーチを、後に併設された研究所 Institute of Ophthalmologyと共同で行なっている。眼疾患治療の先駆者であるMoorfields Eye Hospitalは、二世紀初頭の目標として、世界初の小児眼疾患専門病院の創設を掲げており、今日もなお、世界の眼科医療をリードし続けている。